

ヨーロッパ生まれの単木保護方式

ツリーシェルター

SNSで情報発信中



シリーズ出荷累計700万本

【植栽木のストレスを解消し初期成長を助ける】



株式会社 GCIJ

1. ツリーシェルターの歴史

◆イギリスで始まったツリーシェルター（1979年）

ツリーシェルターは、1979年イギリスの林業試験場職員、Graham Tuley の発案で始まりました。植栽木の植え傷みを防ぎ、苗木の活着率・成長率を高めることが目的でした。当初、筒内の樹木は夏場に予想される高温が原因で枯れるのではないかと心配されたようなのですが、筒に保護された苗木は高い活着率と成長率を示す結果となったそうです。ツリーシェルターは製品化され、以来、イギリスでの推定年間使用量は200万本～400万本に及び、アメリカ、ドイツ、フランスをはじめ、世界で広く使用されています。



アリスホルトロッジ林業試験場（1995年）



イギリスのアリスホルトロッジ林業試験場のグラハムチューレイ氏が
1979年 メッシュガードにポリエチレン製布を巻きつけて試験

1984年 イギリスで100万本以上 生産・販売される

発案者：
グラハム・チューレイ

赤井龍男氏(当時京都大学助教授) カナダ・アメリカにおけるツリーシェルター使用を日本に紹介
1992年 平成4年度「多様化森林造成技術開発調査報告書」(林野庁)

赤井氏、尾鷲営林署の依頼により、ツリーシェルターの開発を開始
1993年 尾鷲営林署の国有林で波板型プラスチックを苗木に被せる

1995年 赤井氏 日本初のツリーシェルター「ヘキサチューブ」を開発

1996年 「ヘキサチューブ」の試験販売

林業白書に食害防止チューブとして記載される
1998年 富士国有林風倒木跡地に10万本の「ヘキサチューブ」納入

イギリスの
ツリーシェルター

2001年 「ヘキサチューブ」出荷累計100万本を超える

2009年 住林、住林フォレスト、ハイト三社共同で、低コストなツリーシェルターの開発着手

2011年 低コストなツリーシェルター「ハイトシェルターS」販売開始

2013年 「ヘキサチューブL」 販売開始

2014年 「ハイトシェルター EX」 販売開始

住友林業社 「ウッドボールシェルター」供給開始
2015年 生分解性ツリーシェルター 「ハイトシェルター BD」 販売開始

2019年 新しいツリーシェルター 「ヘキサチューブW」販売開始

2020年 積水樹脂製 「スパイラルグリーン」「成木保護ネット」 販売開始

シリーズ出荷累計 600万本に到達
樹脂ネット型ツリーシェルター 「ハイトネット」販売開始
2022年 アキレス・住友林業・GCJ 3社による 生分解性「バイオマスツリーシェルター」の販売開始

2025年 シリーズ出荷累計 700万本に到達

日本での最初の調査と紹介(1992年)

国際林業編資料・平成4年度「多様化森林造成技術開発調査報告書」

(林野庁 URL: <http://www.rinya.maff.go.jp/>)によれば、
京都大学元助教授の赤井龍男氏により、アメリカ・カナダにおける植栽林へのツリーシェルターの使用が紹介されています。
その後、93年にフランス、95年にはイギリスでの使用も調査されています。



日本：波板型プラスチックで実験開始(1992年)

◆大阪営林局の依頼で試験開発開始（1992年）

山の多い日本では持ち運びができる折り畳み式多角形であること、光透過率が確保されていること、紫外線劣化の対策がされていること等、元京都大学助教授の赤井先生の指導のもと「ヘキサチューブ」の原型が完成し、旧大阪営林局や京都府立大学の協力を得てヘキサチューブの性能テストが行われ、林地や海岸砂地などで苗木の活着、成長を確認し基本試験が終了した。

2. ツリーシェルターとは 活着・成長を助ける魔法の筒



ツリーシェルターとは

「ツリーシェルター」とは、高さ70cm～180cm程度、直径10cm～15cm程度の『光透過性のある半透明のプラスチック製の筒』です。植栽直後の幼齢木にかぶせることで、その活着率・初期成長率を向上させることができます。当初、「ミニ・グリーンハウス効果」と称されました。1979年にイギリスで発明され、ヨーロッパを中心にアメリカにも普及、年間の出荷本数は数百万本とされています。

活着率・初期成長率向上の秘密、それは「風」「強光(紫外線含む)」「雪」「野生動物の食害」等の環境ストレスを解消できることにあり、急速に普及が進む要因にもなりました。

日本初のツリーシェルターは1996年に販売を開始した「ヘキサチューブ」です。間伐推進政策で再造林面積が激減する時代ではありましたが、全国各地で使用されるようになりました。その用途も、「海岸風衝地植栽」「盛土法面緑化」「再造林(低密度植栽・食害防止・下刈省略・除間伐低減による低コスト再造林)」「広葉樹植栽」等多岐にわたり、2025年には出荷累計700万本を超えるまでになりました。

ツリーシェルターの耐用年数

5年以上は劣化せず、保護し支える

厳しい自然環境(風雪・紫外線・シカの攻撃等)に耐え、苗木が自立するまで形状を維持します

ツリーシェルター部材	部材の特長
1. ツリーシェルター本体	「紫外線・酸化による劣化対策」「風雪・シカの攻撃に耐える」
	「基礎成長期の苗木の重みに耐える」
2. 支柱	「成長した苗木をしっかり支える」「強風、雪の匍行に耐える」
	「サビ防止(紫外線対策済みの樹脂被覆)」
3. 固定リング	十分な強度・耐用年数を有する
4. 固定紐	本体と支柱をしっかり縛る

メモ・・・多雪地でツリーシェルターを活用

積雪深がシェルター高を大きく超えなければ、傾斜に関わらず導入いただけます。また、小規模でも雪崩が発生しない場所であることも重要です。現地の気象条件、地形、土壌条件等を把握することは非常に重要です。

写真：140cm長のシェルターが雪から頭を出している



植栽木のストレスを解消する

生存率UP・初期成長促進

様々なストレスを解消することにより、植栽木の生存率は高まり、初期成長が促進されます。植栽環境が厳しくなればなるほどその効果は顕著となります。

※適地・適木・適作業は各自の責任で行ってください

苗木が受けるストレス模式図



ツリーシェルターの機能

苗畑で大事に育てられた苗木は、異なる環境に植えられ、さまざまなストレスにさらされます。ツリーシェルターは、苗木が移植時に受けるストレスを解消し活着・成長を助けます。

✓ 風から苗木を保護する 「ストレス解消」⇒「生存率UP」「初期成長促進」

ツリーシェルターの効果	風が苗木に及ぼすストレス
光合成の量が増える	日中は風が吹くと気孔が閉じ、止むと気孔が開きます 風を受けない時間が長いほど、気孔が開いている時間も長くなります 気孔が開いている時間が長いほど、光合成する時間も長くなります
水分収支が改善される (強制蒸散を防ぐ)	風が吹く場所では、植物は水分を奪われることがあります(強制蒸散) 風があまり吹かない場所は、逆に、奪われる水分量が少なく、根が吸収する水分を効率的に成長に使うことができます(光合成等) 風の有無、強弱により、植物の成長に差がでます。
飛砂・潮風を防ぐ	海岸風衝地では、強風にのり、砂・潮が吹きつけます。飛砂により枝葉は傷つき、また、潮が枝葉に付着し植物の水分を奪います。
根の揺動を防ぐ	植栽直後の苗木に風が吹き付けると、根が揺すられ定着せず枯れてしまうことがあります。風が強ければ強いほど、そのリスクは高くなります。



紫外線・強光から苗木を保護する

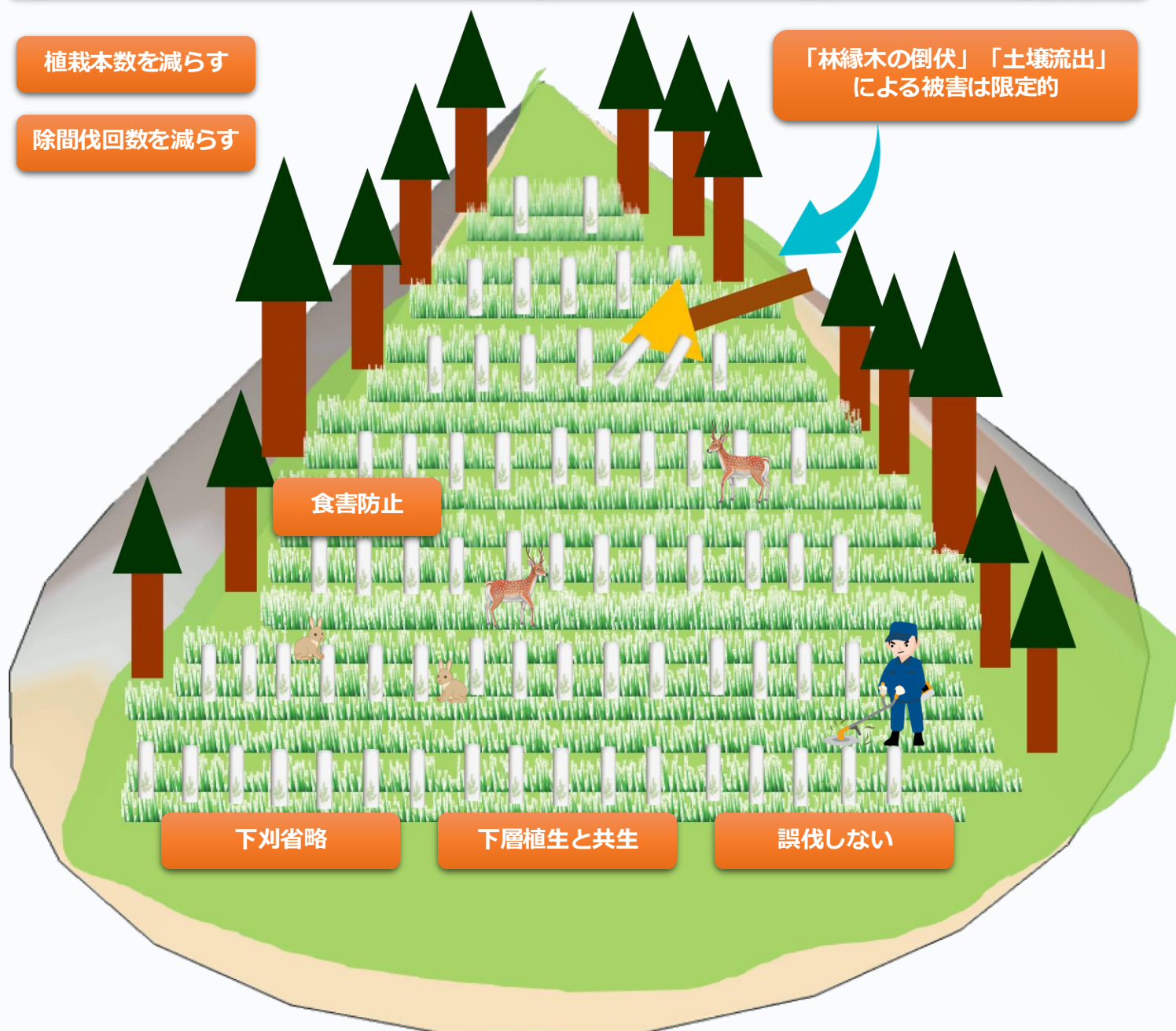
ツリーシェルターの効果	光が苗木に与える影響
光ストレス解消	光は植物に必要不可欠ですが、過剰な光は植栽木の初期成長を阻害する要因となりえます。当社のツリーシェルター本体には紫外線を吸収する材料をシートに添加し、光も2～3割カットするよう設計しています。



野生動物・誤伐から苗木を保護する

ツリーシェルターの効果	野生動物・人が苗木に与える影響
食害を防ぐ	シカ・ウサギ・ネズミの食害により、苗木はマイナス成長
誤伐を防ぐ	繁茂する下草と苗木を区別するのは非常に困難。特に夏場は、...

ツリーシェルター活用による効果・・・低コスト再造林を実現する

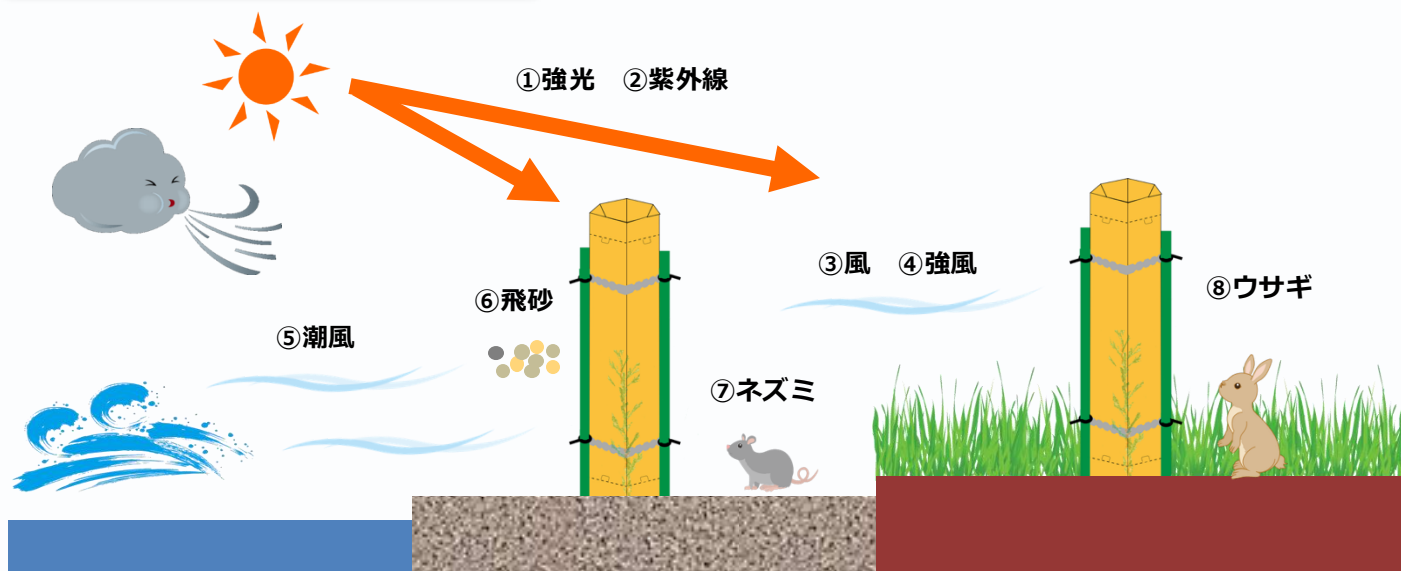




【風衝から保護する】 冬の潮風を防ぐ

冬の季節風が厳しい海岸部では、『**強制蒸散**』『**潮の付着**』『**飛砂**』『**根の揺動**』等のストレスで、苗木の活着・生育が困難です。ツリーシェルターは、風衝によるストレスを解消し、苗木の活着・成長を助けます

海岸風衝植栽地のストレス模式図



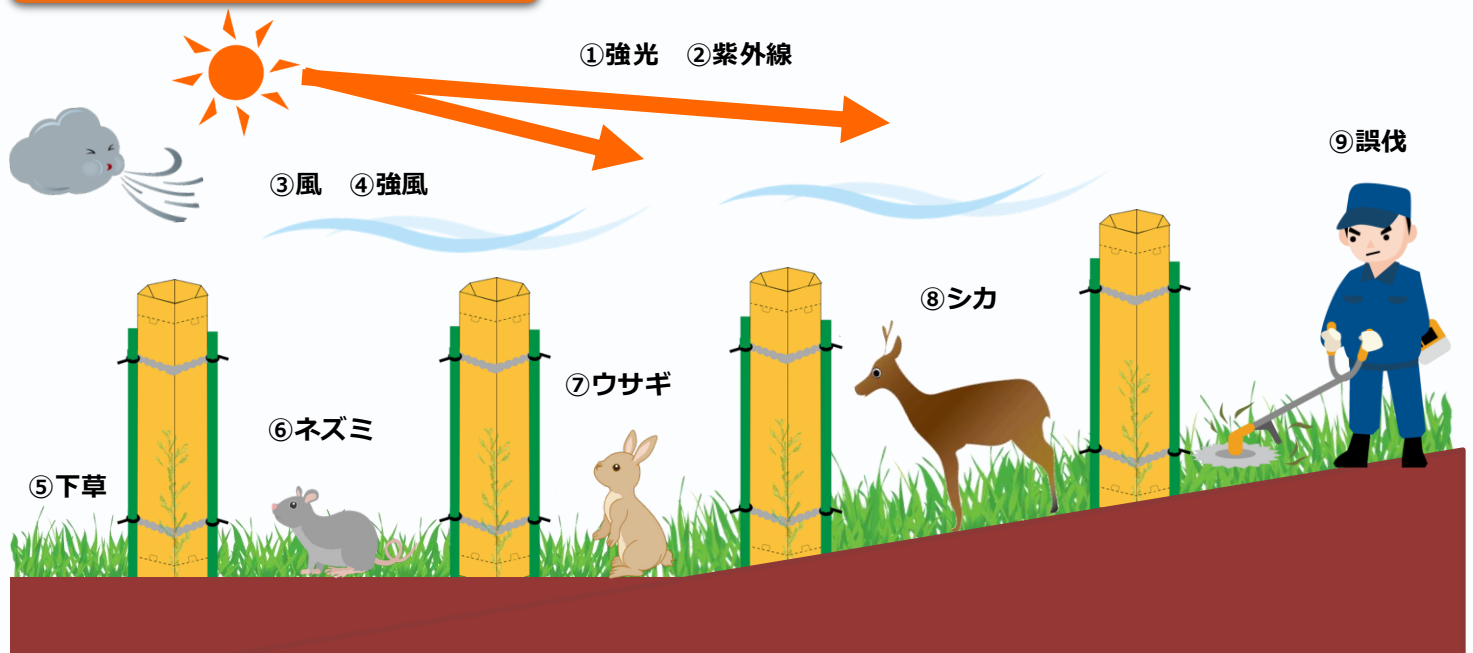




【再造林の省力化】 『低密度植栽』『下刈省略』⇒ 育林コスト低減

「シカ等の食害防止」目的で多く活用されています。また、ツリーシェルターのストレス解消機能による「確実活着・初期成長促進効果」を期待し、「低密度植栽」「下刈り削減」など、再造林の省力化を行えます。

林地植栽時のストレス模式図



スギ



ヒノキ



マツ類



アカマツ



クロマツ



カラマツ



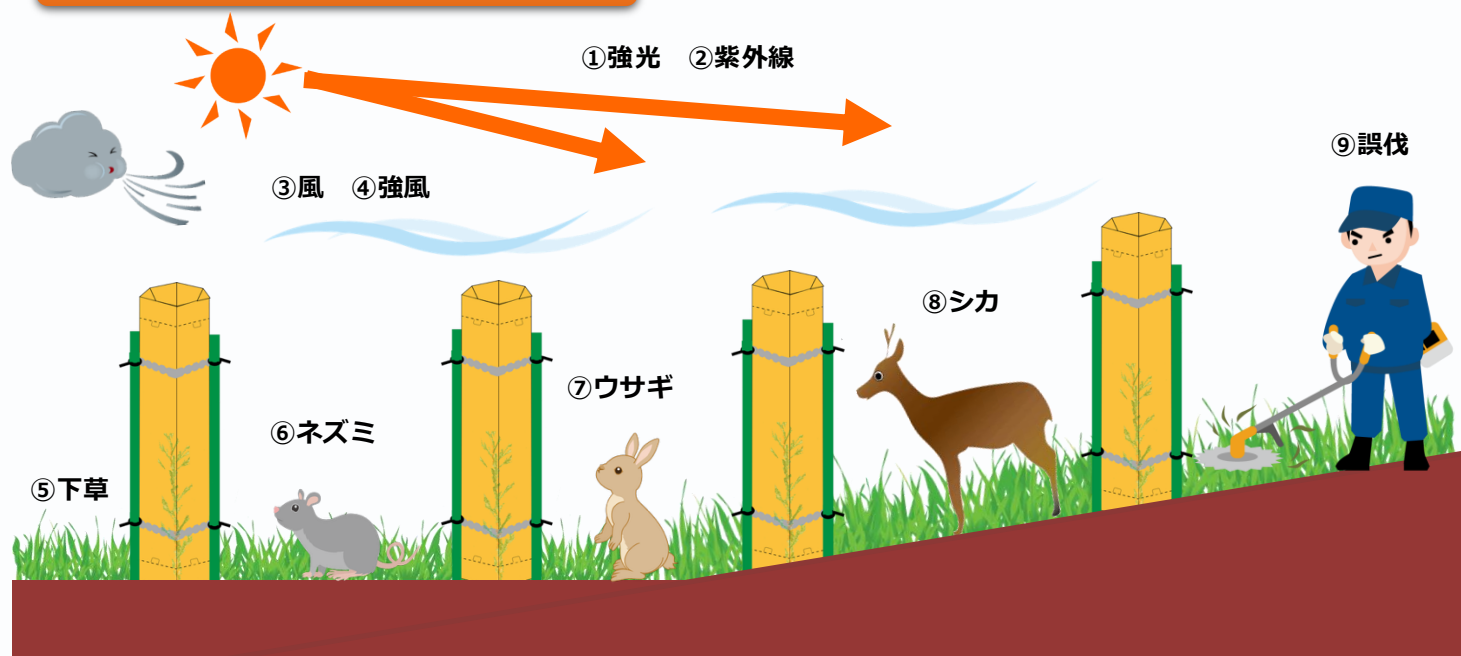
アカエゾマツ



【高い生長促進効果に期待】

ツリーシェルターと広葉樹の相性は抜群です。サクラ、コナラ、ミズナラ、ケヤキ、イロハモミジ等、多くの樹種で高い成長促進効果が期待できます。

広葉樹植栽時のストレス解消モード図





ケヤキ



コナラ



サクラ



イロハモミジ



クヌギ



ブナ



ミズナラ



シラカシ



カシワ



クリ



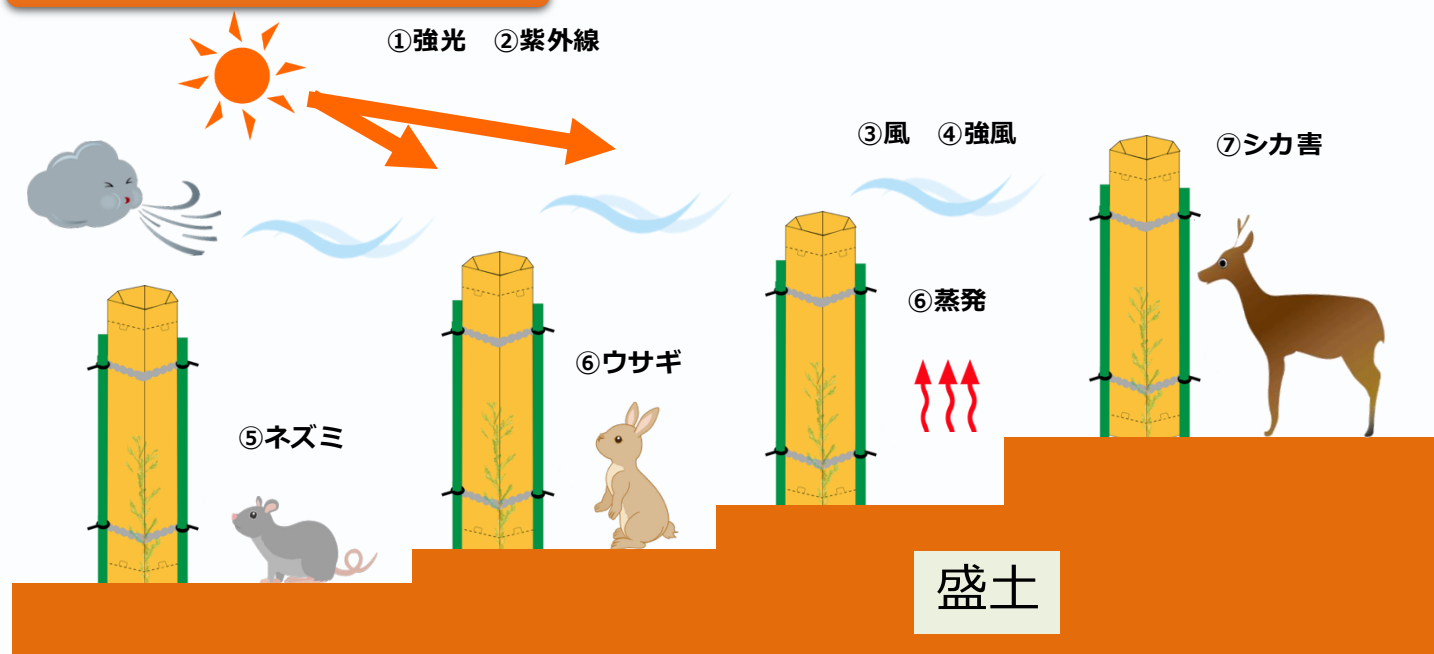
キハダ

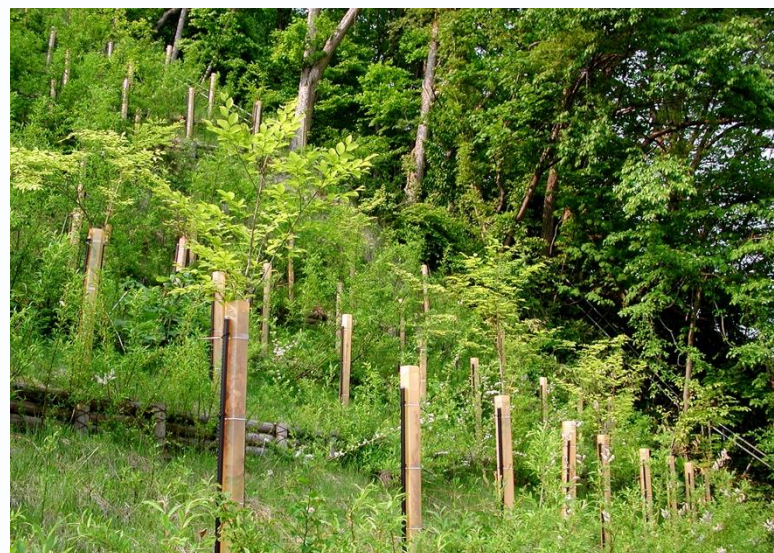


【盛土法面の早期樹林化】 良い苗を正しく植える

盛土法面への植栽には配慮が必要です。例えば「十分な植え穴を掘る」「深植えをしない」「良い苗を植える」等、場合により「畝を切る」などの排水処理も必要です。根が成長する場所を確保するとともに、根が窒息しないよう配慮する気遣いが求められます。

盛土植栽時のストレス模式図







低密度植栽

成長促進

下刈低減

ススキと共生



「ススキがシカの食害からスギを保護？」

シカの食害による不成績造林地。改植にあたり、食害対策として「ハイトシェルター」でスギ苗を保護。植栽密度は従来の3,000本/haではなく1,500本/ha。改植地のため、当年からススキが繁茂するので、下刈は2回ほど行われている。写真は植栽後4シーズン経過した状況。ススキが林地を覆う状況だが、スギはシェルター高を超えて大きく成長しており、逆にススキがシカの圧力を弱めスギを保護する結果になっている

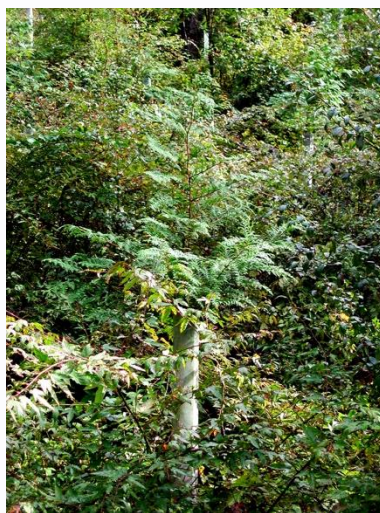


1,500本/ha

下刈省略

人手不足解消

育林コスト低減



「下層植生の繁茂でシカの侵入止まる」

ツリーシェルターによる成長促進効果を期待し下刈は省略。下刈を省略したことから数年で周辺植生が繁茂。トゲのあるノイチゴ、ノイバラも植生に含まれ、筆者も林内を容易に歩き回ることが困難なほど。ヒノキは繁茂する植生に被圧されることなく大きく成長。シカの侵入も下草の繁茂にともない止まった。足元が覚束なく、侵入を嫌った(できなくなった)ためと推察される。

【参考】ツリーシェルター内外温度

『ツリーシェルター内と外気との温度差は5℃程度であり、苗木の生育を妨げるほどの温度には達していない。』



*温度センサーは直射光が当たらないようにプラスチック筒で覆い、そのプラスチック筒をアルミ箔で包む。

夏

測定日	2002年8月18日	測定値		
測定高さ 試験区	設定	10cm 最高温度	70cm 最高温度	140cm 最高温度
外気温		29.1	28.9	29.0
エノキ	140cm・穴なし	28.7	30.7	30.2
エノキ	140cm・穴あり	29.0	30.6	30.4
サクラ	140cm・穴なし	28.6	30.6	30.6
サクラ	140cm・穴あり	28.3	29.7	30.0
植物なし	70cm・穴なし	29.9	32.8	
コナラ	70cm・穴あり	29.7	30.5	
コナラ	70cm・穴あり	29.7	30.7	
ハナミズキ	70cm・穴なし	28.2	29.8	

測定日	2002年8月19日	測定値		
測定高さ 試験区	設定	10cm 最高温度	70cm 最高温度	140cm 最高温度
外気温		34.0	29.4	28.2
エノキ	140cm・穴なし	32.1	34.4	32.9
エノキ	140cm・穴あり	33.1	34.1	33.0
サクラ	140cm・穴なし	32.0	36.0	34.6
サクラ	140cm・穴あり	32.5	31.8	32.2
植物なし	70cm・穴なし	34.7	41.7	
コナラ	70cm・穴あり	34.1	32.4	
コナラ	70cm・穴あり	34.4	34.4	
ハナミズキ	70cm・穴なし	30.9	33.0	

測定日	2002年8月20日	測定値		
測定高さ 試験区	設定	10:30	10:30	10:30
外気温		33.1	28.7	27.7
エノキ	140cm・穴なし	31.8	35.1	33.0
エノキ	140cm・穴あり	32.6	33.9	34.6
サクラ	140cm・穴なし	33.0	37.2	35.7
サクラ	140cm・穴あり	33.4	32.0	33.2
植物なし	70cm・穴なし	32.9	43.3	
コナラ	70cm・穴あり	36.8	33.2	
コナラ	70cm・穴あり	35.1	34.2	
ハナミズキ	70cm・穴なし	29.3	32.6	

2002年8月18日	平均温度		
最高温度	10cm	70cm	140cm
外気温	29.1	28.9	29.0
140cmHT	28.65	30.40	30.30
70cmHT	29.20	30.33	

2002年8月19日	平均温度		
最高温度	10cm	70cm	140cm
外気温	34.0	29.4	28.2
140cmHT	32.43	34.08	33.18
70cmHT	33.13	33.27	

2002年8月20日	平均温度		
最高温度	10cm	70cm	140cm
外気温	33.1	28.7	27.7
140cmHT	32.70	34.55	34.13
70cmHT	33.73	33.33	

2002年8月18日	平均温度		
最高温度	10cm	70cm	140cm
外気温	29.1	28.9	29.0
穴なし	28.50	30.37	30.40
穴あり	29.18	30.38	30.20

2002年8月19日	平均温度		
最高温度	10cm	70cm	140cm
外気温	34.0	29.4	28.2
穴なし	31.67	34.47	33.73
穴あり	33.53	33.18	32.60

2002年8月20日	平均温度		
最高温度	10cm	70cm	140cm
外気温	33.1	28.7	27.7
穴なし	31.37	34.97	34.35
穴あり	34.48	33.33	33.90

測定場所：神戸市灘区

試験実施者：永田洋 先生(三重大大学名誉教授)



食害を受けたヒノキ



半数をツリーシェルターで保護



保護7年目

再生完了

【参考】ツリーシェルターによる成長

- 植栽年月：97年4月26日～98年5月22日
- 試験樹種：サクラ・クヌギ・ケヤキ・スギ・ヒノキ
- 試験場所：京都府久世郡久御山町苗畑（京都府）
- 数値は全て25本の平均である。ツリーシェルターは140cm高を使用



単位 (cm)

	樹種	97.04.26.	98.05.22.	成長差率 (%)
TS 有り	サクラ	70.5	197.0	301
TS 無し		72.0	114.0	
TS 有り	クヌギ	67.0	181.5	382
TS 無し		51.0	81.0	
TS 有り	ケヤキ	13.0	172.0	379
TS 無し		10.5	52.5	
TS 有り	スギ	41.2	132.2	255
TS 無し		38.7	74.4	
TS 有り	ヒノキ	46.1	120.5	170
TS 無し		42.3	86.0	

【参考】ツリーシェルターによる初期成長促進効果

ヒノキ 3年目



スギ 2年目



成長促進

下刈省略

育林コスト低減

人手不足解消

「伸長成長旺盛」

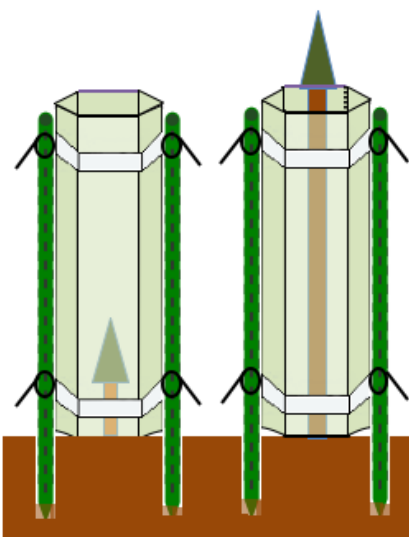
ツリーシェルターで保護した苗木は、「風」「シカ」「強光」「紫外線」等の環境ストレスから守られ、初期成長が促進されます。通常と比べ、スギで約2倍～2.5倍、ヒノキで約1.5倍の成長量が得られます。また、広葉樹とツリーシェルターの相性は抜群で、樹種にもよりますが、2倍～3倍の成長が期待できます。

取り外しは、植栽4～5年以降の「成木成長期間」に！！

A：「苗木保護期間」

植栽後 1～2 年

取り外し ×



ツリーシェルター内で保護され過ごす期間です。

この間、

- ①野生動物(シカ等)の食害
- ②風
- ③強光 (紫外線含む)

から苗木は保護されます

結果、残存率は高まり、初期成長が促進されます。

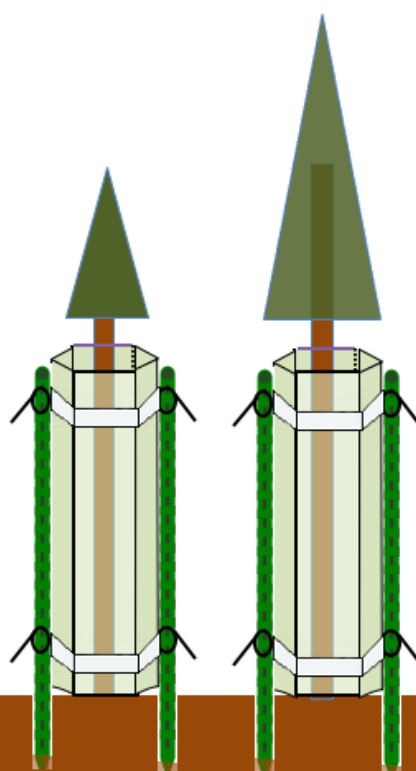
「苗木保護期間」の間はツリーシェルターを取り外してはなりません。

B：「苗木基礎成長期間」

植栽後2～3年

立派に自立した若木に生長

取り外し ×



シェルターの先端から苗木が頭を出しはじめます。

これから苗木は風を受け、樹幹・根張を充実させていきますが、シェルターの先端から出た苗木の枝張りはまだ充実しておらず、樹高に対し、まだ樹幹が細い樹形です。

根張りもまだ少なく、シェルターの支えが必要です。

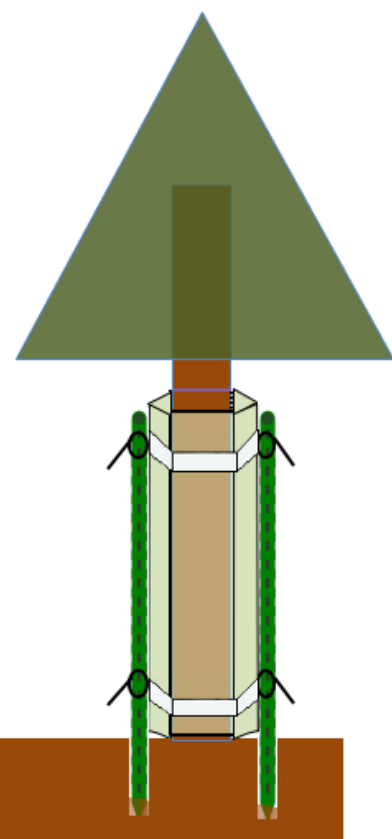
「苗木基礎成長期間」では、まだツリーシェルターを取り外すことはできません。

C：「成木成長期間」

植栽後4～5年

シェルターから出て成長をはじめる

取り外し ◎



シェルターから出た苗木は成長とともに風を受け、枝張り・樹幹・根張りが充実。

樹高も増し、立派に自立した若木に成長しており、もうツリーシェルターの支えは必要ありません。

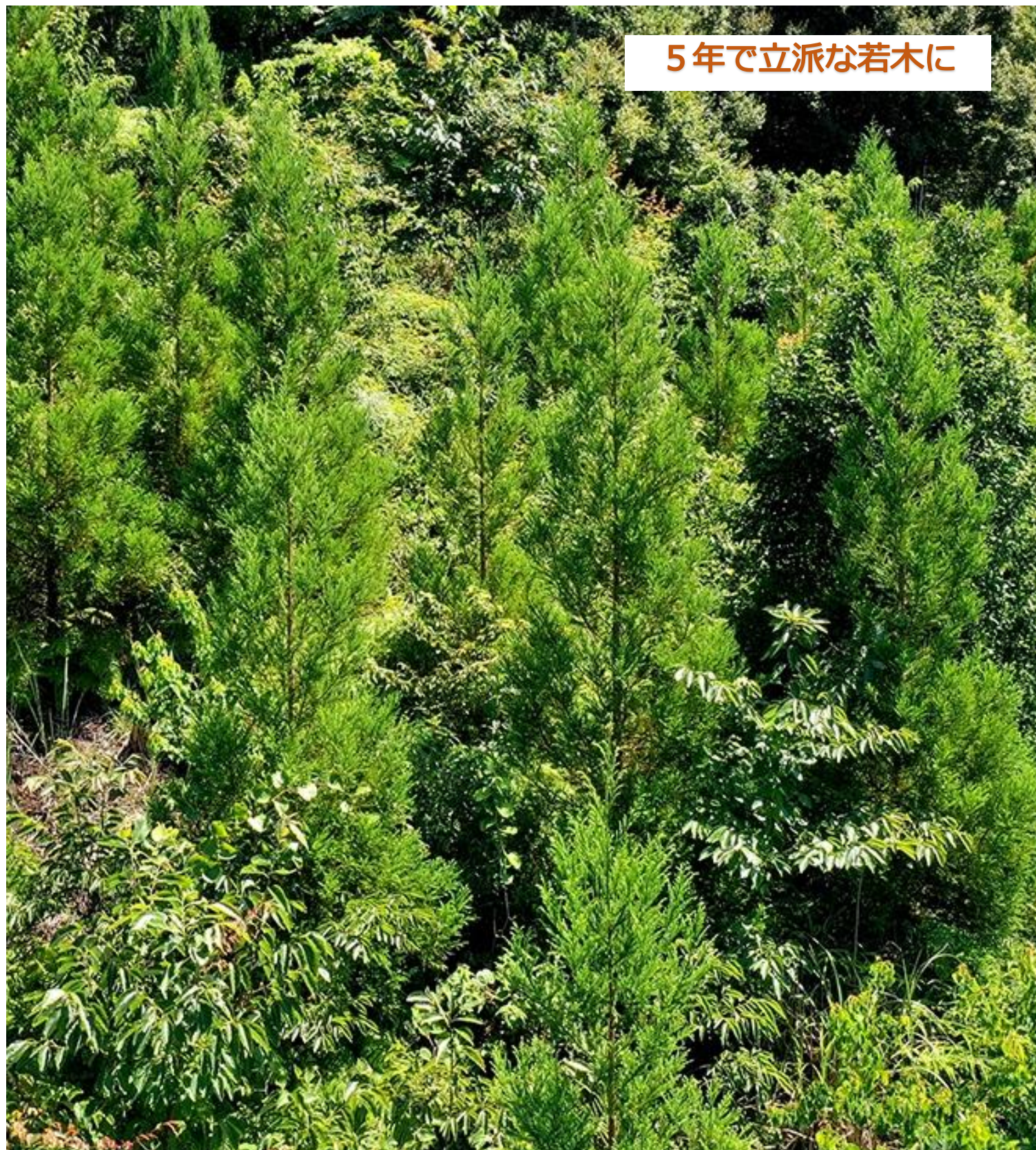
枝張り・樹幹・根張りが充実する「成木成長期間」を過ぎれば、ツリーシェルターを取り外すことができます。

※シカによる幹剥の被害を防ぐため、早期に取り外さず、筒一杯に成長するまで保護するお客様の方が多いです。

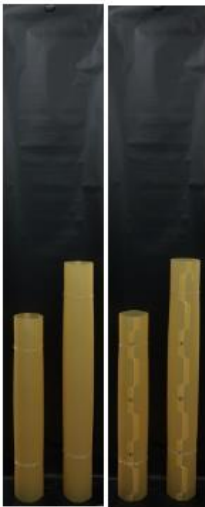
【参考】5年で立派な若木に・・・

「最初はヒョロヒョロだけど・・・」

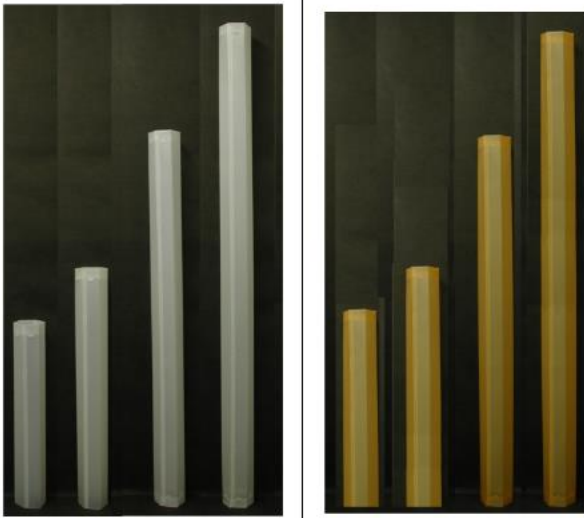
苗木はシェルター内で枝を張ることなく成長しますので、植栽後1～2年は「ひょろひょろ」です。この時期に取り外したお客さんは『もやしになる』苦言を呈されます。しかし、シェルターから頭を出した苗木はその後成長を続け、枝を張り、風を受けることで幹は充実し、植栽後5年も経つと「立派な若木に成長します」。



I-1. 商品一覧

製品名	ハイトシェルターS		ハイトシェルターBD	ハイトシェルターEX
製品写真				
組立後形状	直径10cm円筒	直径10cm円筒	直径10cm円筒	直径10cm円筒
長さ	140cm、170cm	70cm、90cm	140cm、170cm ※70cm、90cm長をご検討の場合はご相談ください	140cm、170cm
素材	ポリプロピレン	ポリプロピレン	ポリプロピレン 酸化型生分解促進剤(PLIFE)配合	ポリプロピレン
シート厚	0.5mm シングル	0.5mm シングル	0.5mm シングル	0.4mm シングル
組立後最大幅	10cm	10cm	10cm	10cm
耐候性	5年以上 紫外線劣化対策済	5年以上 紫外線劣化対策済	5年以上 紫外線劣化対策済	5年以上 紫外線劣化対策済
色	乳白色	薄オレンジ色	乳白色	乳白色
	※シェルター色についてご希望がございましたらご相談ください			
貼合部	差込式 	差込式 	差込式 	シームレス
引上防止穴	下部1箇所	下部1箇所	下部1箇所	下部1箇所
通気孔	下部3箇所 	下部3箇所 	下部3箇所 	複数箇所

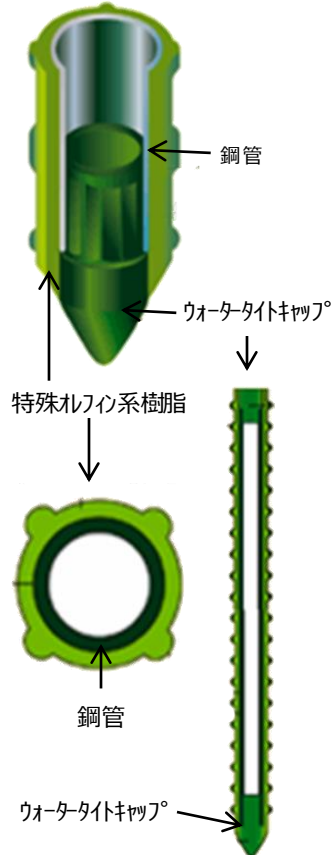
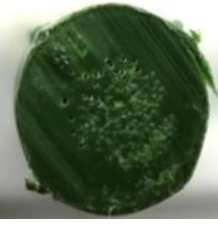
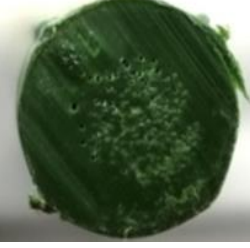
I-1. 商品一覧

製品名	ヘキサチューブ ※		ヘキサチューブL	ヘキサチューブW
製品写真				
組立後形状	1辺6cm正六角柱		1辺6cm正六角柱	1辺7.5cm正六角柱
長さ	70cm、90cm、140cm、170cm		70cm、90cm、140cm、170cm	140cm 168cm
素材	ポリプロピレン製シート		ポリプロピレン製シート	ポリプロピレン製ブラ段
シート厚	0.7mm		0.7mm	2.0mm
	シングル		シングル	ダブル
組立後最大幅	12cm		12cm	15cm
耐候性	5年以上 紫外線劣化対策済	5年以上 紫外線劣化対策済	5年以上 紫外線劣化対策済	5年以上 紫外線劣化対策済
色	乳白色	薄オレンジ色	乳白色	乳白色
貼合部	超音波圧着		差込式	差込式 上下超音波圧着
				
				
引上防止穴	なし		下部1箇所	下部1箇所
				
通気孔	なし		下部3箇所	下部3箇所
				

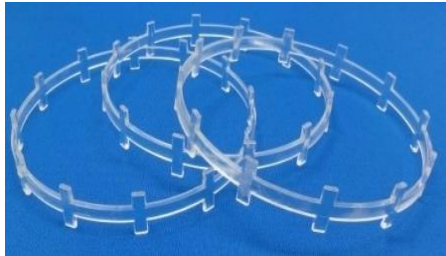
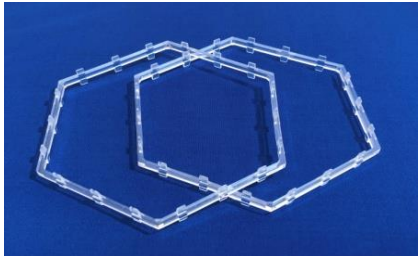
※ヘキサチューブの乳白色は受注生産

I - 2. 付属部材

(1) 専用支柱杭

(A)長さ (cm)					(B)径	(D)水密性キャップ
90	120	165	170	210	 ①16mm	 鋼管 ウォータータイトキャップ 特殊エポキシ系樹脂 鋼管 ウォータータイトキャップ
					 ②20mm	
					 ③26mm	

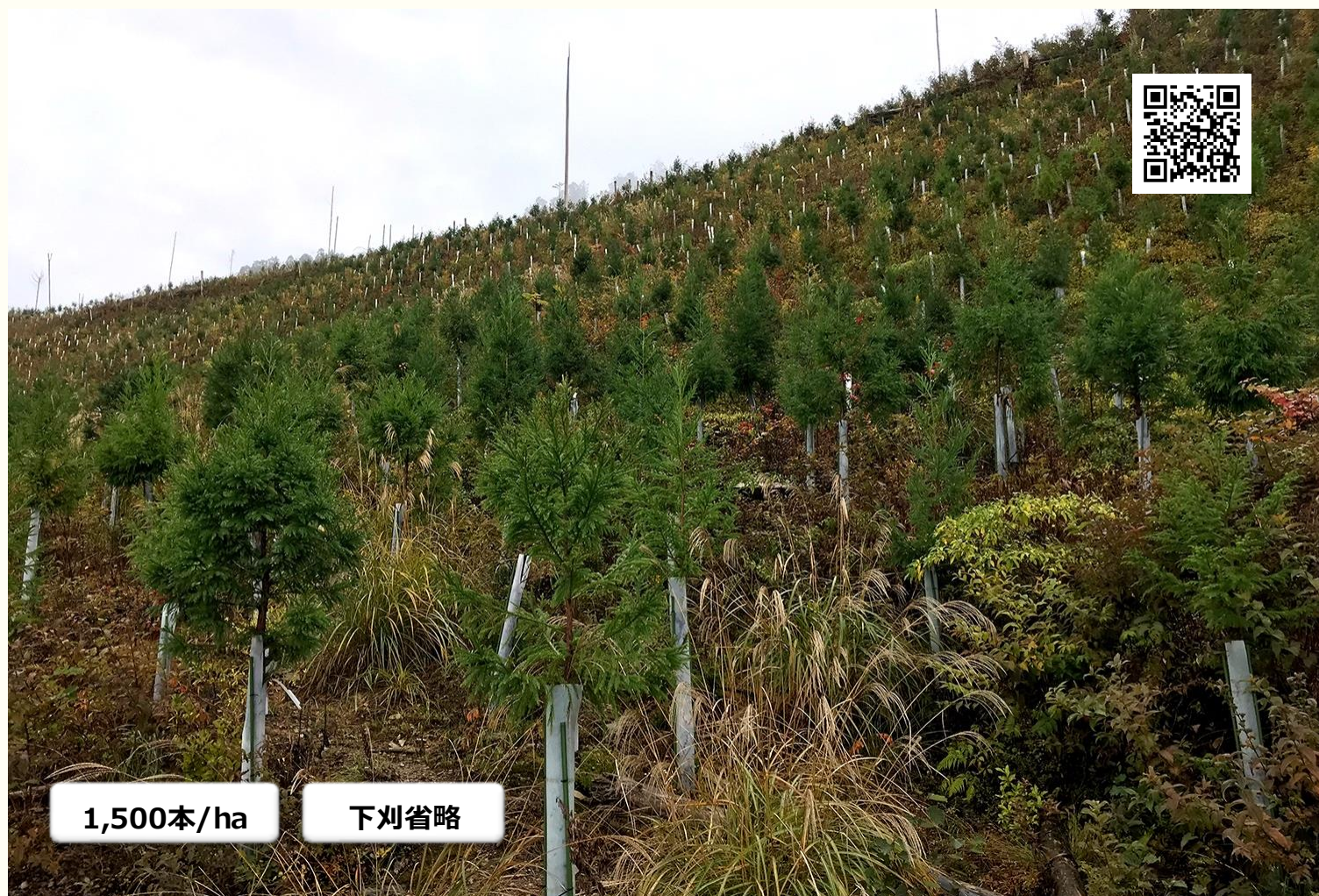
(2) 専用固定リング (3種類)

■ハイトシェルター (PS) 用 	■ヘキサチューブ (HT) 用 	■ヘキサチューブW (HTW) 用 
---	---	---

(3) 専用固定紐

 標準仕様 66ナイロン製 (締切タイプ)	 オプション 66ナイロン製 (仮留タイプ)
---	--

【参考】低密度植栽 (1,500本/ha)



Ⅱ. ハイトシェルター-S (PSS)



1. 部材の特徴

補助金利用可能（補助金の有無は自治体によります）

とにかく安い！シカ、ウサギ、ネズミの食害を防止！下刈りしない！疎植推奨(1,500本/ha)

(1)PSS本体	(2)専用支柱杭	(3)専用固定リング
①素材はPP。優れた耐候性と耐久性 ・素材はPP（ポリプロピレン） ・紫外線劣化対策済み ・長期間苗木を保護します ②円筒形を採用・組立簡単 ・風を受け流す構造 ・固定リングを通し簡単に円筒に成形 ③ツナギ部分は差し込み式 ・組立簡単。取り外しも簡単です ④サイズの選択（シカ食害防止用） ・「140cm」と「170cm」の2タイプ ・ウサギ、ネズミ対策用 「70cm」と「90cm」の2タイプ ⑤通気性の確保 ・裏面に気孔状の穴を3箇所あけ、通気性を確保しています ⑥光透過率70%以上 ⑦直径 10cm	①軽量かつ頑丈な鋼管製 ・ポリエチレン樹脂被覆鋼管 ②水密性・耐候性バツグン ・ポリエチレン樹脂被覆式 ③長さの選択 ・90cm、120cm、165cm、170cm、210cmから選択 ④鋼管径の選択 ・鋼管径は16mm、20mm、26mmから選択	①シェルターの形を円筒形にしっかり保持 ・組立後の強度をアップ ②素材は優れた耐久性 ・ポリカーボネート製で、強度、耐候性に優れ、頑丈かつ長期間使用に耐える素材です
		(4)専用紐
		①本体と支柱をしっかり縛り固定 ・66ナイロン製 ②長期間の使用可能 ・長期間屋外使用に耐えるグレードを採用

Ⅲ. ハイトシェルターEX (PSEX)



1. 部材の特徴

補助金利用可能（補助金の有無は自治体によります）
とにかく安い！シカ、ウサギ、ネズミの食害を防止！下刈しない！疎植推奨(1,500本/ha)

(1)PSEX本体	(2)専用支柱杭	(3)専用固定リング
①素材PP。優れた耐候性と耐久性 ・ポリプロピレン製シートを採用 ・紫外線劣化対策済み ・長期間苗木を保護します ②円筒形を採用・組立簡単 ・風を受け流す構造 ・専用リングを通し簡単に円筒に成形 ③ツナギ部分がない（シームレス） ・継ぎ目なし ④サイズの選択（シカ食害防止用） ・「140cm」と「170cm」の2タイプ ⑤通気性の確保 ・通気孔あり ⑥光透過率70%以上 ⑦直径 10cm	①軽量かつ頑丈な鋼管製 ・ポリエチレン樹脂被覆鋼管 ②水密性・耐候性バツグン ・PE樹脂被覆式 ③長さの選択 ・165cm、170cm、210cmから ④鋼管径の選択 ・鋼管径は16mmと20mmから 選択可能	①シェルターの形を円筒状にしっかりと保持 ・組立後の強度もアップ ②素材は優れた耐久性・耐候性 ・ポリカーボネート製で、強度、耐候性に優れ、頑丈かつ長期間の使用に耐える素材です
		(4)専用紐 ①本体と支柱をしっかりと縛り固定 ・66ナイロン製 ②長期間の使用可能 ・長期間屋外使用に耐えるグレードを採用

IV. ヘキサチューブW (HTW)



(写真提供：バイオマスパワーテクノロジー(株) 様・(株)玉木材 様)

1. 部材の特徴

トチなど葉の大きい広葉樹、ヒノキ等に最適。最大直径15cm幅のツリーシェルター

(1)HTW本体	(2)専用支柱杭	(3)専用固定リング
<u>①軽量と頑丈さを同時に実現</u> ・素材はプラスチックダンボール ・二重構造を持つポリプロピレン製シート ・紫外線劣化対策済みです <u>①優れた耐候性・耐久性</u> ・5年程度の耐候性 <u>②1辺7.5cmの正六角柱（組立後）</u> <u>③張合部は差し込み式</u> ・組み立ては専用固定リングをはめるだけ ・組立簡単、取り外し簡単 <u>④サイズの選択</u> ・「140cm」と「170cm」の2タイプ <u>⑤通気性の確保</u> ・通気用の穴あり <u>⑦最大径 15cm</u> ・最大径15cmのツリーシェルター	<u>①軽量かつ頑丈な鋼管製</u> ・シェルター本体や苗木を支える ・ポリエチレン樹脂被覆鋼管 ・軽い鋼管支柱。持ち運び楽 <u>②水密性・耐候性もバツグン</u> ・ポリエチレン樹脂被覆式、耐久性バツグン ・先端、後端も十分な水密性確保 <u>③長さの選択</u> ・170cm、210cm等選択可能 <u>④鋼管径の選択</u> ・鋼管径は16mmと20mmから選択	<u>①シェルターの形を六角状にしっかり保持</u> ・組立後の強度をアップ <u>②素材は優れた耐久性、耐候性</u> ・ポリカーボネート製で、強度、耐候性に優れ、長期間の使用に耐えます <u>③新考案：突起形状の採用</u> ・突起形状によりヒモをしっかり縛れます <u>(4)専用紐</u><u>①本体と支柱をしっかりと縛り固定</u> ・66ナイロン製 <u>②長期間の使用可能</u> ・長期間屋外使用に耐えるグレードを採用

V. ハイトシェルターBD (PSBD)



1. 部材の特徴

生分解性ツリーシェルター。
生分解性素材の採用に関し、山林等へのゴミの放置を推奨するものではありません。

(1)PSBD本体	(2)専用支柱杭	(3)BD固定リング
<u>①優れた耐候性と耐久性</u> ・ポリプロピレン製シートを採用 ・紫外線劣化対策済み ・長期間苗木を保護します <u>②生分解性</u> ・ポリプロピレン樹脂をベースにした酸化型生分解性プラスチックを採用 <u>③円筒形を採用・組立簡単</u> ・風を受け流す構造 ・固定リングを通し簡単に円筒に成形 <u>④ツナギ部分は差し込み式</u> ・組立簡単。取り外しも簡単です <u>⑤サイズの選択（シカ食害防止用）</u> ・「140cm」と「170cm」の2タイプ <u>⑥通気性の確保</u> <u>⑦光透過率 70%以上</u>	<u>①軽量かつ頑丈な鋼管製</u> ・ポリエチレン樹脂被覆鋼管 ・シェルター本体と苗木を支える <u>②水密性・耐候性・耐久性もバツグン</u> ・ポリエチレン樹脂被覆式 ・先端、後端も十分な水密度を確保 <u>③長さの選択</u> ・165cm、170cm、210cmから選択可 <u>④鋼管径の選択</u> ・鋼管径は16mmと20mmから選択 ※支柱の強度は鋼管径に比例します。 風の強弱、積雪量の多少、シカの生息密度等から適切な支柱を選択ください。	<u>①シェルターの形を円筒状にしっかり保持</u> ・組立後は形状を円筒に保つ <u>②素材は優れた耐久性・耐候性</u> ・ポリカーボネート製で、強度、耐候性に優れ、頑丈かつ長期間の使用に耐えます <u>③新形状の突起加工採用</u> ・ヒモをしっかり縛れます (4)専用紐 <u>①本体と支柱をしっかり縛り固定</u> ・66ナイロン製 <u>②長期間の使用可能</u> ・長期間屋外使用に耐えるグレードを採用

VI. ヘキサチューブ (HT)



1. 部材の特徴

日本初 元祖ツリーシェルター

(1)HT本体	(2)専用支柱杭	(3)HT用固定リング			
①優れた耐候性 ・ポリプロピレン製シートを採用 ・紫外線劣化対策済み ②優れた耐久性 ・シート厚0.7mm ・先端折返しで組立後強度アップ ・長期間苗木を保護します ③組立後の形状は「六角柱」 ・固定リングを通し簡単に六角柱に成形 ・1辺6cm正六角形、最大径12cm ④張合部は電着式 ⑤サイズは4種類から選択可能 ・シカ食害防止「140cm」「180cm」 ・ウサギ等食害防止「70cm」「90cm」 ・海岸等風障防止「70cm」「90cm」等 ⑦光透過率 70%以上 ⑤「薄オレンジ色」「乳白色」の2種類	①軽量かつ頑丈な鋼管製 ・ポリエチレン樹脂被覆鋼管 ・シェルター本体と苗木を支える ②水密性・耐候性・耐久性もバツグン ・ポリエチレン樹脂被覆式 ・先端、後端も十分な水密度を確保 ③長さの選択 ・90cm、120cm、170cm、210cm ④鋼管径の選択 ・鋼管径は16mmと20mmから選択 ※支柱の強度は鋼管径に比例します。風の強弱、積雪量の多少、シカの生息密度等から適切な支柱を選択ください。	①シェルターの形をしっかり保持 ・組立後は形状を筒状に保つ ②素材は優れた耐久性・耐候性 ・ポリカーボネート製で、強度、耐候性に優れ、頑丈かつ長期間の使用に耐えます ③突起加工採用 ・ヒモをしっかり縛れます <tr><th colspan="2">(4)専用紐</th><td> ①本体と支柱をしっかり縛り固定 ・66ナイロン製 ②長期間の使用可能 ・長期間屋外使用に耐えるグレードを採用 </td></tr>	(4)専用紐		①本体と支柱をしっかり縛り固定 ・66ナイロン製 ②長期間の使用可能 ・長期間屋外使用に耐えるグレードを採用
(4)専用紐		①本体と支柱をしっかり縛り固定 ・66ナイロン製 ②長期間の使用可能 ・長期間屋外使用に耐えるグレードを採用			

Ⅶ. ヘキサチューブL (HTL)



(写真提供：森の安全を考える会 様 食害を受けたスギの保護)

1. 部材の特徴

「ヘキサチューブ」の簡易版

(1)HTL本体	(2)専用支柱杭	(3)HTL用固定リング			
①優れた耐候性 ・ポリプロピレン製シートを採用 ・紫外線劣化対策済み ②優れた耐久性 ・シート厚0.7mm ・長期間苗木を保護します ③組立後の形状は「六角柱」 ・固定リングを通し簡単に六角柱に成形 ・1辺6cm正六角形、最大径12cm ・端部分は折り返しなし ④張合部は差込式 ⑤サイズは4種類から選択可能 ・シカ食害防止「140cm」「170cm」 ・ウサギ等食害防止「70cm」「90cm」 ・海岸等風障防止「70cm」「90cm」等 ⑦光透過率 70%以上	①軽量かつ頑丈な鋼管製 ・ポリエチレン樹脂被覆鋼管 ・シェルター本体と苗木を支える ②水密性・耐候性・耐久性もバツグン ・ポリエチレン樹脂被覆式 ・先端、後端も十分な水密度を確保 ③長さの選択 ・165cm、170cm、210cmから選択可 ④鋼管径の選択 ・鋼管径は16mmと20mmから選択 ※支柱の強度は鋼管径に比例します。風の強弱、積雪量の多少、シカの生息密度等から適切な支柱を選択ください。	①シェルターの形をしっかりと保持 ・組立後は形状を筒状に保つ ②素材は優れた耐久性・耐候性 ・ポリカーボネート製で、強度、耐候性に優れ、頑丈かつ長期間の使用に耐えます ③突起加工採用 ・ヒモをしっかりと縛れます <tr><th colspan="2">(4)専用紐</th><td> ①本体と支柱をしっかりと縛り固定 ・66ナイロン製 ②長期間の使用可能 ・長期間屋外使用に耐えるグレードを採用 </td></tr>	(4)専用紐		①本体と支柱をしっかりと縛り固定 ・66ナイロン製 ②長期間の使用可能 ・長期間屋外使用に耐えるグレードを採用
(4)専用紐		①本体と支柱をしっかりと縛り固定 ・66ナイロン製 ②長期間の使用可能 ・長期間屋外使用に耐えるグレードを採用			

ツリーシェルターによる低コスト再造林のススメ

「植栽本数減」「下刈省略」が鍵

皆伐を志向する地域が近年増えてまいりました。一方で林野庁の公表資料によると、「主伐面積に対し人工造林面積が3～4割で推移」しており伐採面積と造林面積の乖離が大きな問題となっています。「大きい再造林費用負担」「シカの被害対応」などが要因と言われており、確実かつ低コストな再造林技術が求められています。

1：植栽本数を減らし、ツリーシェルターで保護する

- ★シカの食害を防ぎます
- ★植栽費用(植え手間・苗木代)が減ります
- ★除伐・間伐回数を低減できます

2：下刈を省略する

- ★保護木の初期成長は早く下刈省略が可能です
- ★人手不足も解消できます



(下刈省略、植栽本数を1,500本/haと減らし、低コスト再造林を実践)



株式会社GCI
ツリーシェルター事業部
HP : www.treeshelter.jp



〒610-0313 京都府京田辺市三山木垣ノ内5 7-5
TEL : 0774-66-2980 FAX : 0774-63-6881
E-Mail : info-treeshelter@gcj-labo.jp